

皆さんこんにちは、三菱UFJ投信でCSRの推進担当をしております西沢と申します。当社はFSCの森のサポート制度に参加し、今回5ヘクタールの森林の保全をサポートすることになりましたが、岩泉町の広い森林の中で、ごく少ない部分をサポートしているにすぎません。ぜひ多くの企業に、わたしどもの後に続けて参加いただけたらと思い、当社のCSR活動の中で、どのような意義を持ってサポート制度を進めていくかについて、説明させていただきます。

本日はまず当社の業務概要とCSRへの取り組み、その中でも特にFSC森林認証、あるいは森林認証支援といった点について説明したあと、広葉樹をキーワードにした「タネタネフレンズ」というキャラクターをご紹介します。当社の英文表記はMitsubishi UFJ Asset Managementといい、略してMUAM「ムアム」と称しています。そこで今回サポートしている森を「ムアムの森」と言っていますが、ムアムの森が誕生した経緯などについて説明したいと思います。

三菱UFJ投信自身は1985年に設立されましたが、2006年、三菱UFJという金融グループが設立された際に、過去からの合併を合わせると8つの投信会社が合併したことになります。本社は千代田区で、資本金20億円です。投資信託の運用を手がけています。運用資産は2007年12月末時点で7兆5400億円強、投信業界で第4位の位置にあります。ただし従業員は400名ほどで、それだけの人数でできることを見つけるのが最大の課題です。東京以外には大阪、名古屋にオフィスが、ロンドンと香港に現地法人がありますが、ほとんどの社員は東京におり、移動に5時間かかる岩泉町は、結構遠いなというのが正直な印象です。

本業で取り組む環境配慮—SRI投信

ここで、投資信託の仕組みについて、少しだけご説明します。お客様が投資信託という商品を購入される際、銀行や証券会社など、一般に販売会社と言われる店舗の窓口あるいはインターネットを利用されます。そのように銀行や証券会社が集めた資金を、債券や株式の市場で、どういう銘柄や債券を買うのがよいのか、運用の指図をするのが当社の業務であり、そういった意味では舞台裏の役割を担っています。信託銀行という銀行が別があり、そちらとよく間違われるのですが、当社はあくまで投信を引き受けています。信託銀行、証券会社あるいは銀行とは別の機関です。そういう意味では一般の方にはなじみが薄いかもかもしれません。

そのような企業でのCSRとしては、グループ共通の目標を掲げており、それに沿った取り組みを実施しています。ひとつが、地球環境問題への取り組みです。例えばCDM（クリーン開発メカニズム）プロジェクト、環境への融資、それからSRI関連企業への投資なども実施しています。ふたつめのテーマは、次世代社会の担い手育成です。国内では、少子高齢化を迎える中、ワークライフバランスの積極的な推進に力を入れています。海外では、奨学金制度の導入や国際交流プログラムの実施を行っています。

中でも、一番力を入れているのがSRI投信の普及推進です。SRIとは、Socially Responsible Investment すなわち社会的責任投資ですが、割安な株を買って値上がりを期待するだけではなく、投資対象の企業が地球環境問題や従業員の機会均等、地域社会への貢献など、間接的には企業の持続性にもつながると思われますが、そうしたことに積極的に取り組んでいるかどうかを評価して銘柄を選定し、運用する投資信託です。こうしたSRI投信を積極的に取り扱うことが、当社の方針として掲げられています。

そのSRI投信のひとつが、「三菱UFJ SRI ファンド(愛称:ファミリー・フレンドリー)」という商品です。こちらは昨年、財団法人 社会経済生産性本部より「第一回ワークバランス大賞」の「貢献部門」で優秀賞を受賞しました。こうした投信の活動も含め、CSRとして色々なことを実施したいと考えますが、金融の本業だけですと活動範囲が広がりにくいということで、2006年4月にCSR推進室を設置し、身近でできるCSR活動を検討し始めました。ただしCSR推進室といっても、専任ではなく兼務で、3名体制の組織で活動しているところです。

CSR活動の中ではまず、顧客満足と環境への負荷軽減を目標に、ISO9001 および 14001 を昨年、同時に取得しました。環境配慮型のファンドを設定している会社がいくつか、ISO14001 を取得していますが、9001 も取得しているのは恐らく金融業界では当社だけだと思います。

三菱UFJ投信

2.CSRへの取り組み

- ✓ 「地球環境問題への対応」「次世代社会の担い手育成」
 - 三菱UFJフィナンシャルグループのCSR活動における重点領域
- ✓ SRI投信の普及推進 (Socially Responsible Investment, 社会的責任投資)
 - 企業の収益性や成長性など財務面の評価だけでなく、地球環境問題への配慮、従業員の機会均等への取り組み、地域社会への貢献など、企業の社会的な側面を投資基準として考慮する投資信託
 - 「三菱UFJ SRIファンド(愛称:ファミリー・フレンドリー)」が、「第一回ワークバランス大賞(貢献部門)」優秀賞を受賞
- ✓ CSR推進室設置 (H18.4~)
 - ワークライフバランスの積極推進
 - ISO9001/ISO14001同時認証取得 (投資信託専任)
 - ・ お客様の満足度向上と環境への配慮をめざして

©2007 三菱UFJ投信

FSC 認証紙の採用から、森林の現場へ

このようなCSRへの積極的な取り組みが、FSCの森林認証へたどり着き、今回のサポート制度につながっていきました。投資信託商品をお客様に説明する際には、投資信託説明書という紙資料を大量に使いますが、必ずお客様にお渡しするルールになっています。当社には約400種類の投資信託説明書があり、年間で1,000トンを超える紙を使用している計算になります。金融商品取引法への対応もあり、

三菱UFJ投信

3.FSC森林認証への取り組み

- ✓ 投資信託の販売は大量の紙が必要！
 - 投資信託説明書(交付目録見書)、運用報告書等・・・年間約1,000トン
- ✓ FSC森林認証紙への切替を積極的に推進
 - コピー用紙(H19.10~)
 - 運用報告書(H19.10~)
 - 投資信託説明書(交付目録見書)(H20.1~)

©2007 三菱UFJ投信

今年はさらに、その1.2~3倍は使っているかもしれません。これだけ大量の紙を使っている観点から環境負荷を減らしたいと考え、最初は当然、古紙や再生紙の積極採用から始めました。

古紙、再生紙の利用は2006年から実施していますが、これだけでは環境への配慮という意味では不十分なのではないかという問題意識が生まれ、FSC 森林認証紙への切り替えを積極的に推進してきました。ただ先ほどの説明の中にもあったとおり、印刷会社のような中間業者もCoC 認証を取得していないと、最終製品にFSC のロゴマークを付けられないため、準備に多くの時間がかかりました。結果、2007年10月、社内で使っているコピー用紙の全量と、投資信託を購入したお客様に送付する運用報告書すべてをFSC 認証紙に切り替えました。ただ、投資信託説明書については、一部の印刷会社でCoC 認証の取得が遅れた事情などから、本年ようやく切り替えはじめた状況です。

また、認証紙とあわせた環境負荷の低減という意味で「バタフライ（水なし印刷）」ですとか、大豆由来のインク使用なども始めています。

森も資産運用も、未来を見据えて

このように、FSC 認証紙を中心に積極的に取り組んできましたが、もうひとつ、当社が重視してきたことがあります。それは、投資信託という会社の特徴でもあります、お預かりしたお金を安全に、長期的に運用していくということです。そしてこれは、木や草花を育てるのと似ているのではないかという意見が出てきました。

そこで、植物のキャラクターを作り、難解な金融商品を説明する際のわかりやすさというメリットも狙い、「未来にタネをまこう」というコンセプトのもと、2年前に当社のキャラクター「タネタネフレンズ」を作りました。現在は6匹ですが、いずれは10匹ぐらいに増やす予定です。植物を育てるように、お客様と一緒に投資信託をわかりやすい形で育てていくという会社のコンセプトに、CSR を関連づけようと検討する中で、今回の森のサポーター制度を実現するに至りました。ただ、法規の面から、様々な活動を展開する際の制約があります。三菱製紙さんが当初苦労されたことでもありますが、金融機関の事業として植林を実施することができません。ではどういったスキームだったら可能なのか検討した結果、寄付の形態を取ってサポートすることになりました。



FSC の考え方をよく知れば知るほど、これは持続可能な社会を作っていくのに本当に不可欠な制度だとの感が強くなりました。適切な森林の管理つまり、Stewardship とは責任を意味するとの解説もあったように、信頼感という意味では、お客様から預かったお金を運用する金融会社にも共通します。環境と社会への配慮はもちろん、お金も植物も時間を

かけて大切に育てるものだというを具体的なイメージとして表したかったことが、今回のFSC森林認証の森、「MUAMの森」へつながりました。

こういった活動を通じ、資産運用という本業も含めて、責任のある、皆様に信頼していただける企業になりたい、そうした思いの実現に向けて一歩踏み出せたように思います。

最後、まとめになりますが、冒頭の講演にもあったように、やはりCSR活動といってもただ闇雲に実施するのは意味が薄いと考えており、ストーリー性を持たせて取り組んでいきたいと思っています。そうした意味でまさに今回は、それを実現できたと考えております。

持続的な森林管理ということにつき、紙の利用で応援するのみならず、森に直接支援できるのは当社にとってもメリットがあります。さらに、どこの産地の木で作った紙かを明確にする意味でも、将来は岩泉町の木で作った認証紙を利用したいと考えており、CSR活動をうまくつなげていきたいと思っています。

国内で実施するということにも、非常に意味があります。行政にも喜ばれますし、我々自らも現地に行って地域に貢献することができるのは、企業にとっても望ましいことと思っています。レクリエーションという意味で、CSR活動を実施するのも可能でしょう。従業員に対する義務の部分なのかもしれませんが、楽しみながら実施していきたいと思えます。そうしたレクリエーションの場として森林を使えるのもメリットの一つです。東京から来られる人数には限りがあるかもしれませんが、研修のようにして年に何回か、ぜひ実行したいと思っています。

これからの弊社の広報でも、「タネタネフレンズ」のキャラクターも含め、彼らのふるさとである広葉樹の森を広く伝えていきたいと思えます。今後も長く関わっていきたくて考えておりますし、ぜひ当社に続く企業のご参加をお待ち申し上げます。